

明るい未来への飛躍

「中核市元年」予算

本庁舎行財政改革課

0857-2020-3040

中核市関連予算を盛り込み
質の高い市政を実現

平成30年度当初予算は、市長選挙を控えていたため、義務的経費を中心とした骨格予算（※）での編成となりました。骨格予算であっても、「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」の実現に向け、新市庁舎整備や新可燃物処理施設整備などの重要施策を盛り込むとともに、地方創生を停滞させることなくさまざまな推進事業を継続させながら、医療福祉や教育の充実、経済対策や防災などの強化を進めるとともに、中核市としてふさわし

い「質の高い市政運営」と「連携中核都市圏の発展」を実現するための予算としています。

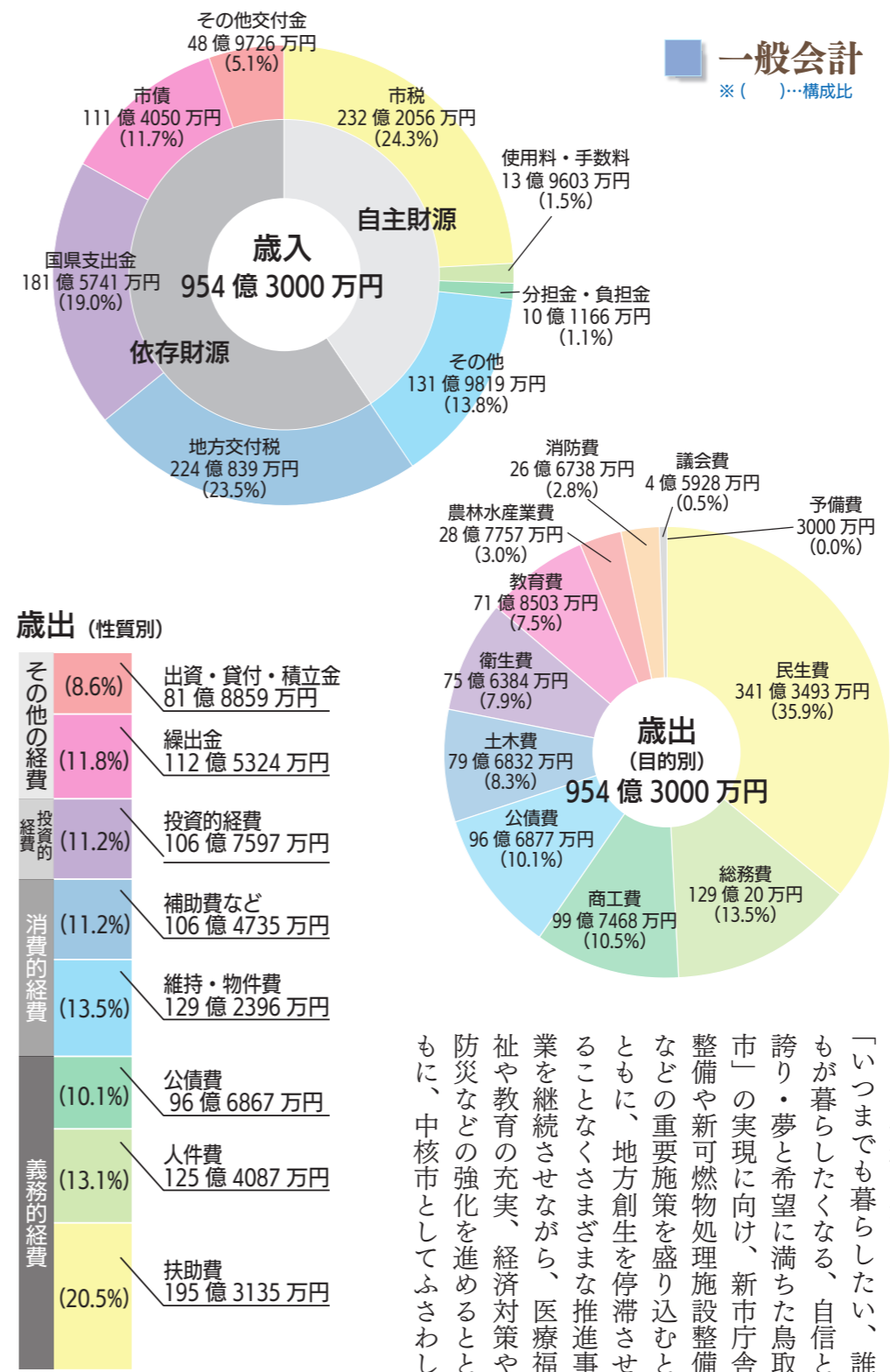
市民の暮らしと地域経済を支える

歳入面では、これまで積極的に取り組んできた経済・雇用対策の効果が表れ始め、市税が増加する見込みです。また、地方交付税も中核市移行、連携中核都市圏の形成による財政措置の影響で増額としてあります。

歳出面では、「円滑な中核市への移行と連携中核都市圏の形成の実現」「切れ目のない重要施策の推進」「地方創生の重点化」に重点配分するとともに、年間を通して市民の暮らしと地域経済を支える取組を盛り込んでいきます。

一般会計

※()…構成比



II 切れ目のない重要施策の推進

- ◆新市庁舎の建設整備 (38億8182万円)
- ◆新可燃物処理施設の建設整備 (4億7831万円)
- ◆市内中学校の耐震化 (1億4270万円)
- ◆認定こども園の施設整備を支援 (4億6269万円)
- ◆気高道の駅(仮称)の整備 (14億1916万円)



III 地方創生の重点化

- ◆小中学校の学校給食費等の公会計化 (11億8777万円)
- ◆放課後児童クラブを拡充 (4億3488万円)
- ◆こども食堂や学習支援を行う団体を支援 (820万円)
- ◆町内会などが行う除雪活動を支援 (1138万円)
- ◆岡山大学と連携した「災害救急講座(仮称)」を市立病院に開設 (3000万円)
- ◆広域周遊観光を推進する麒麟のまち観光局を支援 (4250万円)



企業会計

会計区分	予算額
水道事業	83億9467万円
工業用水道事業	622万円
下水道等事業	166億4149万円
病院事業	104億8952万円
計	355億3190万円

主な事業

I 円滑な中核市への移行と連携中核都市圏の形成の実現

①中核市移行に伴うサービスの充実

- ◆軽費老人ホームの運営を助成 (1億2283万円)
- ◆手話通訳者派遣等の聴覚障がい者支援 (2901万円)
- ◆感染症患者の医療費公費負担 (1945万円)
- ◆大気汚染物質の常時監視 (1801万円)

②麒麟のまち圏域の発展事業の実施

- ◆国際観光を推進 (7078万円)
- ◆夜間休日急患診療所の運営 (3965万円)
- ◆麒麟獅子舞の普及啓発 (195万円)



特別会計

会計区分	予算額
土地区画整理費	7896万円
公設地方卸売市場事業費	3536万円
駐車場事業費	160万円
国民健康保険費	176億9867万円
高齢者・障害者住宅整備資金貸付事業費	611万円
住宅新築資金等貸付事業費	3171万円
土地取得費	101万円
墓苑事業費	1億1221万円
介護保険費	189億9021万円
財産区管理事業費	864万円
温泉事業費	4868万円
観光施設運営事業費	1295万円
介護老人保健施設事業費	8181万円
後期高齢者医療費	20億3658万円
電気事業費	2767万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業費	2331万円
計	391億9548万円

(※) 骨格予算とは

骨格予算とは、首長選挙を間近に控えた自治体が政策的な判断が必要となる経費を盛り込まず、扶助費や人件費など義務的経費を中心に編成した予算のことです。

実質的な負担が大きい市債の残高は着実に減少させています。

また、基金(貯金)は、今後の不測の事態に備えるため、できる限り残しておくこととし、基金繰入金は前年度より30・4割減の18億4千万円としており、将来の明るい未来への飛躍を支える安定した財政運営を堅持しています。

なお、政策的判断の必要な事業については、6月補正予算で対応することとしており、とっとり市報8月号で改めて紹介する予定です。